

サポーター同行だから安心！ 北陸新幹線に乗車し金沢へ

UD 観光のプロに 旅行プランを依頼

高齢になると、遠出をした
いと思っても、移動や体調管
理に不安が伴うもの。札幌に
お住まいの高須賢二郎さん

(八五)・直子さん(八一)ご夫
妻は、㈱HKワークスに旅行
のプランニングを依頼し、今
年九月に念願の「金沢・京都
の旅」をサポーター同行(有
料)で実現しました。日数は
三泊四日。サポーターは、い
わば旅のお供。自分たちだけ

で旅行するのは不安という人
にとって頼りになる存在で
す。出発時から帰宅時まで同
行して添乗員のような役割を
果たし、同性の入浴にも付き
添ってくれます。

高須夫妻の「北陸新幹線の
グランクラスに乗りたい」、
「金沢と京都の名所を巡りたい」、
「温泉があつて部屋は和
室」といった希望を聞いた㈱
HKワークスは、これまで旅
行機会がなかなか持てなかつ
た夫妻のために、おすすめめ
観光スポットをリストアップ。

高須夫妻の 「金沢・京都旅行プラン」の概要

- 1日目
自宅-千歳空港-羽田空港(浅草・
上野など観光)-都内宿泊
- 2日目
東京駅-北陸新幹線乗車-金沢駅
(兼六園、武家屋敷など観光)-
和倉温泉宿泊
- 3日目
和倉温泉-特急乗車-京都駅(伏
見稲荷・平等院など観光)-宇治川
河畔に宿泊
- 4日目
清水寺など観光-京都駅-特急乗
車-関西空港-千歳空港-自宅

※自宅-千歳空港間はタクシーを利用。
※サポーター(1名)同行料金は、旅費+1日
当たり約1万~3万円(業務内容により)

温泉・食事・景観
に定評のある宿を
探し、移動の身体
的負担を軽減する
チャーター・タク
シーで効率よく巡
るプランを立てま
した。

札幌を経て、その日のう
ちに北陸新幹線乗車も可能で
すが、高齢になって移動に終
始したのでは疲れがたまって
しまいます。そこで、東京で
の一泊を組み込んだところも
本プランのポイントです。

グランクラスに大満足 和倉温泉でのんびりと

北陸新幹線のグランクラス
は、飛行機のファーストクラ
ス並みの豪華さ。座席はゆっ
たり、飲み物や軽食のサービ
スもあります。東京から金沢
まで約二時間三十分、その乗
り心地を、写真の笑顔が物
語っています。

サポーターとして同行した



林弘恵さん(日本UD観光協
会事務局長)に、旅行中の高
須夫妻の様子を伺うと――。

「能登半島の和倉温泉のお宿
が特にお気に召されたよう
です。穏やかな日本海が部屋
からも見え、仲睦まじく眺め
ていらつしゃいました。奥様
の入浴にご一緒した際、露天
風呂にとても喜んでおられま
した」

歩くスピードに配慮し休憩
のタイミングを図り、脚に
負担がかかりそうなところで
は車いすを用意してくれたた
り、雨が降ったときは別の
楽しみを考えてくれたりと、
臨機応変のサービスをしてく
れるサポーターの存在は心強
い限り。京都の清水寺で朱

印帳を購入した高須夫妻は
「旅行に來たから買えたんだ」
と弾む口調で語らっていたそ
うです。



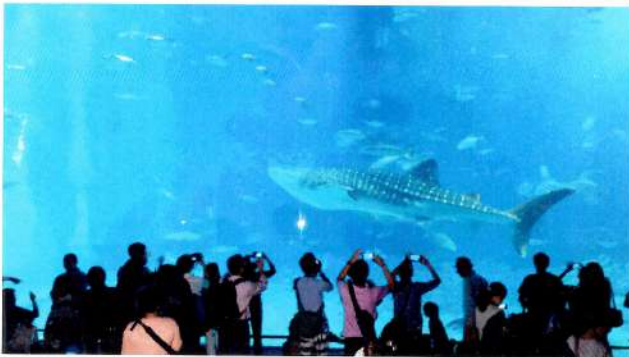
能登半島千里浜では、日本海の風
を感じながら散策。写真右はサ
ポーターの林さん。

上/北陸新幹線のグランクラスの快適さにご満悦の高須夫妻。
下/人気の高い和倉温泉に宿泊。美味に笑みがこぼれる。

沖縄へ直行し待望の美ら海水族館へ 現地の介助サービスを率先して体験

沖縄本島旅行を実現 今回は石垣島へも

九月上旬、札幌市東区にある札幌アシストセンターマザー伏古に小谷晴子さんを訪ねました。三階建ての建物の一階に生活介護事業所と訪問介護事業所が入り、二階、三階がバリアフリー賃貸住宅となっています。電動車いすを巧みに操作する小谷さんに館内を案内していただき、多目的室で二〇一四年三月に実施した二泊三日沖縄ツアーについて伺いました。



上／那覇空港に着いたその足で守礼門へ。参加者全員で意気揚々と記念撮影。
下／沖縄美ら海水族館の大水槽の前に、シャッターを押した小谷さん。写真撮影も旅の楽しみ。

同ツアーの参加者は十三名。引率役の小谷さんはじめ、札幌アシストセンターマザーの福祉サービスの利用者とその家族、ヘルパー資格を持った事業所スタッフおよび小谷さんの知人、添乗員一名という構成です。「沖縄に行ってみたいという利用者さんの声に応え、沖縄で福祉車両の運転手をしている知人のところに、みんなで押し掛けたという感じですよ(笑)」と小谷さん。旅行プランは、小谷さんらの要望をもとに、那覇H&Kワークスが作成。千歳空港発、那覇空港行きの直行便を利用し、その日のうちに守礼門や首里城を観光。翌日は、お菓子の有名店や道の駅でショッピングを楽しみ、お目当ての「沖縄美ら海水族館」へ。「どんなところか知っていましたが、実際に行ってみて大



写真を広げ、二泊三日沖縄ツアーの思い出を語る小谷さん。

特定非営利活動法人
札幌アシストセンターマザー
理事長 **小谷 晴子** さん
札幌市生まれ。ぜんそくや小脳の疾患のため、酸素吸入機器と電動車いすを使用しながら、通所介護・生活介護・訪問介護・居宅介護などの事業にまい進。介護保険サービスや障害福祉サービスの利用者らのUD旅行を計画し実現している。

水槽の迫力に驚きました。ツアー参加者は三十代から七十代まで、年代も趣味も異なりますが、みなさん大感激。イルカのショーも見応えがありました」と小谷さん。
三日目は、那覇市の国際通りを車中から眺め空港へ。搭乗までの間、お土産を買い食事をし、旅行気分を満喫したそう。「参加者の体調と安全管理が第一。笑顔がたくさん見られて本当によかったです。利用者さんが楽しんでくださったことが、私の最大の喜びです」とほほ笑む小谷さん。
参加者から「次回は石垣島に行きたい」との声が上ががり、その話で帰途も盛り上がったそうです。

現地で介助サービスが利用できるシステムを

「障がい者が外出するに当たって、一番心配なのはトイレなんです。ですから、車いすで入れるトイレのあるところをメインに観光プランを立てました」と小谷さん。

地・沖縄で実践されていることを率先して体験しようと考えたからです。(6ページ参照)
「旅行に介助者が同行すると旅費だけ見ても二倍になりますから、現地の介助サービスを利用した方がいいんです。北海道各地でそうしたことができるよう、各方面と連携して実現して行く」と思っています」
その言葉どおり、小谷さんは、札幌バリアフリーツアーデスク開設に尽力し、運営に携わる運びです。